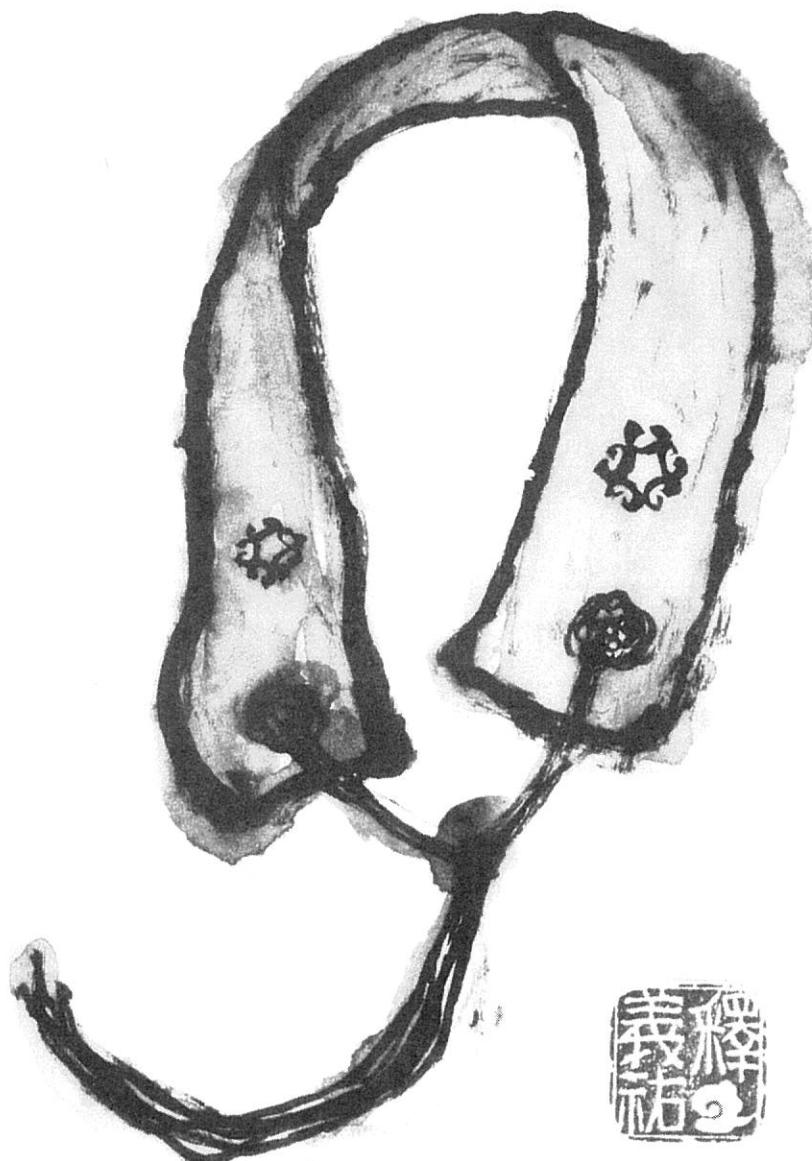




真宗大谷派
高徳寺通信



帰敬式 法話

近田昭夫先生

今日帰敬式をお受けになつた皆さん方、誠におめでとうございます。さつき御影堂（がきやうどう）でおかみそり（おかみそり）をしてくださった、お鍵役（かぎやく）の方も、おめでとうござりますと、お言葉をおつやいました。ただ今、お一方お方に法名をお渡しする時にも、おめでとうございますと、そういう言葉がありまつたけど、めでたしと思つてますか？まあご愁傷様（しゆじょうじやう）とは言わなげどね。本当にめでたしと思つられておられるかどうかですよ。で実は、この帰敬式とつゝは最近大浴場（おふろじょう）で非常に大事に考えてきた帰敬式実践運動（じっせんうんどう）とつゝがあるくらいで、さういふして、これはまあ昔から俗に「おかみそり」といふ名で親しまれてきました。具体的に言うと、法名を頂戴するといふ儀式

なんですね。すると、うつかりするとどうするか、死んだ時に貰う名前を今から貰ってけば手とり早くして安心だと。そういう風に、良いかたとおしゃる方もな、訳ではなんないです。それはそれで結構でございますが、実はです、そこの壁（かべ）に「生まれた意義と生きる喜びを見つけよ」と。これは昭和37年からはじました真宗同朋会運動の50年間ずっと共通したテーマといふかスローガンなんですね。で、このスローガンと「うかテームを掲げなければならぬなかたのはなぜと言つたら、あのとおりです。生まれた意義と生きる喜びが見つかなくて困つてゐるのですが、我々は！」

私自身もですね、東京の浅草の寺の次男坊に生まれましたけど、寺に生まれたくて出て来たらでなげです。出て来たら寺だったんです。そひだけの話ですよ。おまけに私は次男坊として生まれましたから、長男がいたんです。私は生まれる時にお兄ちゃんが欲しことは思つてなかたけど、出て来てみたら先住民族が

いただけの話です。(笑) するとその芹沢俊介とう
方がおっしゃりますように、人間がこの世に生ま
れるということは、根源的受動性と強制贈与という
2つの言葉で、芹沢俊介とう評論家の方は、我々が世に生まれたということの問題点をさうお
しゃって、「イノセンス」という言葉でおさえられて
います。ですから私が寺に生まれたことうのもそ
うですし、親を選んで生まれ出た人いないでしょ。
それから女がよくて出て来て、欲でないでしょ。出
て来てみたら女だった、それだけの話です。だか
ら全部強制贈与です。糖尿病になりやすい体
質も、高血圧体质もね。頭の禿^落やすい体质も全
部これ強制ですよ。(笑) 私は満80歳になります
すけれど、そのわりにそんなんに(髪は)白くなっています。
どうでもいいことですけどね。(笑) これはね、
私が好みでなんでなんでなんですよ。私は兄弟
ですけど、兄と弟が2人も健在でございます。
3人兄弟みんな大名派のお寺の住職さんです。
ところがですね、兄と弟は40代から髪が白くなり
ました。坊さんは髪が白い方が品が良く見える
んですよ。だけどこれはしおうがないんですよ。

私は染めもしないで自毛なんですよ。そんな
話をしてありますから、私、母親似なんです。
髪の毛が…。で兄と弟は父親似の髪なんです
すね。だから同じ親から産まれ出した兄弟で
ありますけど、父親似と母親似でもって髪型
のクセが違うんですよ。これは自分の好みで
選んだもんじやないんです。で、忘れもしません
一昨年、北海道札幌別院の報恩講でそん
なことを口走ったんですね。そして控室にあ
る中年の男性が訪ねて来てね、「先生あなた
ことは言わん方がいいですよ。」なんか質問で
もしに来たのかなと困ったう、「あんなことは
おっしゃらん方がいいですよ。」って言うから、
どうしてって聞いたら、「あんただけ父親が違
うのかもしれない…」(大笑) ね、そういう風に
自分が自分であるとこうことに納得いたし
かねるというところから人生はスタートして
ますね。これは東宮家の愛子さんでも同じ
ですよ。我々からするとあんな良いところへ
お生まれになつて。これは他人が言つてますよ。

もうちょっと大きくなつてからんながい、凶またはすよ。宮内庁発表がないだけの話。とあります。だからよく若い人がぼやく言葉に「なんでおれがオレでなきやなんないんだ!」これは人間の基本的な問題です。じゃ今までなんで生きて来たのかって言いたう、生まれたついでに死なないで来ただけの話ですよ。私も80年生きてきましたけど、本当に生きて来たのか死なないで来たのか、どうですか…。皆さん、どうですか?生きてんですか?死なないでいるんですか?(笑)やがけりそ、死なないでいるものが、私が私であるところに生きるところの始まりを持たなければ、何のために生まれたのか分からませんから。死ぬとき死ぬませよ!!そんなことを言つたら、「生まれた意義と生きる喜びを見つけよう」と言つけど、ひとつ抜けている言葉がある。「この私はこの度、死んで行く」ということの大変な意味です。そつこつことがひともはっきりしないまま世の中の風の間に間に生きている訳であります。ですから、生きているじやなくて、死なないでいるだけの話なのです。

このままでいっただう、いのち終わる時に死ぬまでも。死ぬなことどうなりますか?思ひが残るでしょ。自分の人生何だったのかってなるから。そうすると亡靈おとぎになつてさまりわきやなうな、靈魂みたまにでもならぬと帳尻ちようじゆが合らなくなるんです。そういうのがこの日本の国を覆いつけてゐる靈信仰です。亡くなつた人の供養くようが足らないと靈界みたまでもうろちよろしてゐる。あれは死んだ人がそうなつてゐるという話じゃないんですよ。ここにいる私やあなたが、自分が自分であるといつことが受け取れないと云ふこと、たつた一つそこだけです問題は、どういふことを我々に先立て…歎異抄の言葉で言えば、仏かねて知らしめして、その仏さまの我々の事実を深く悲しみたまゝで、その事実を見出された悲しみからのはだらきのあられとして、私どもに、「南無阿弥陀仏」という法のはだらきが届けられてゐるんです。それを聞きひらいて、ふといつことに、私は今日からさういう人生を生きようとするがために、どうしまつたということを儀式化したのが今日の帰敬式

ですから。今までは、生まねたついで死ななか
きただけです。一生懸命生きてきたには盡るが、
すけれど、ただそれだけの話。私が私であるという
ことに本当に自体満足して、自分が自分である
ということに満足されて生きる生活を今日から始
めたいと思ふ。まわすところ決意表明が今日の三
帰依文をあなたが声に出して読まれたところ
とです。今日の帰敬式というものの儀式全体を
お考えになつてください。だいたい執行の言葉で
も、法名授与でも、それから法名をつけてくださ
ったのでも、全部「ひとびと」がやしてくれたことです。
あなたがなさつたことって何だつて言ひたら三帰
依文を讀んだってことだつてですよ。三帰依文讀
んだつのは印刷されたものをお読みになつただけ
かもしだせんけど、今日から私は「私が私で
ある」ということなに本当に喜べるような生活を
始めたいと思ふ。まわすところ決意表明をなさ
たといつてすから、「の上もなじめでござつてす
から」「おめでとつ」と言ひざるを得ない。
こういふことでござります。それから今日、いたたいた
て袈裟。輪になつている袈裟といつて輪袈裟

といふのも、「けれど、正しく聞ひし、これは略肩衣と申
します。」やはりつて日常お内儀にお参りされる時も
お掛けになつてください。それからお寺へ参られる時も
お掛けになつてください。それがうちお参りされる時も
お掛けになつてください。必ず略肩衣をお掛けに
なつてお参りになつてください。そういうことをお願
い申し上げます。で、私のこの寺の永代經や報恩講の
時には受付を作ります。そこに入る門徒の絶代とか
世話をとつ方々は全員皆さうと同じよつて略肩
衣を掛けなさいやつる。そこへある男がやって来ま
してね、私に言つて下さいよ。「あそこの受付に並んで
る人は、犬の首輪みたいなのをはめてるけど、あれはい
たい何をくだい?」と。(笑)ものぞ知らんといふ人は、そ
ういうことを言つのかなと田じて失礼なんと言つ奴
だなと田じたう腹立ちましたけど、考えたらうふ。これ
犬の首輪と同じなんですよ。如來さまがね、手元を
離したうどんへ飛んで行くか分からぬから、如來
さまのお手元から離れないように輪つかを縫めて
くだけたんだですよ。あのね、輪袈裟を掛けたから、
てエライものになつたがんて勘違つたなつません
ようじ。(笑)お手元を離したらどうして走つて行く
マどうぞ如來さまのお手元で生活をさせなさいだ
くいふでござります。それからひとついたがれたり
よろこびから思ふます。(京都・東本願寺同朋会館講堂)

2012年4月24日午後3時
4月26の2泊3日



で、京都・東本願寺内の同朋会館において真宗入門講座の後期教習が開催された。その時の帰敬式著伝達の際に、近田先生がお話をされたものを別冊にさせていただいた。

帰敬式を受け恭名を名な告るとはどううことなか：有縁の同朋と確かめてみたいものである。

毎度のことながら最初と最後の文字の大きさが違うのは「愛嬌」ということで…。

釋義祐



◆ 今回ご縁のあた方々と19通り…。我々のうしろには御影堂とこれから御修復の阿弥陀堂(左)。

◆ okagesan 臨時別冊『本山・帰敬式 近田先生のご法話』

発行日 2012.5.5

〒164-0002

発行 真宗大谷派 高徳寺

東京都中野区上高田1-2-9

編集 住職 新井 義雄

☎ 03-3368-6947

表紙の絵 略肩衣(帰敬式バージョン)

FAX 03-3362-8019

ホ-ムペ-ジ www.kautokuji.or.jp